平成29年度　学校評価表							豊橋市立牛川小学校				
ミッション	子どもの笑顔があふれる学校の創造			a ビジョン			確かな学力と豊かな心，じょうぶな体をもった子どもを育てる 自己肯定感と自己存在感を育み，共感的人間関係のある集団づくりに努める 教育愛と情熱と自信をもって教育に専念する教師集団を目ざす 学校，家庭，地域で子どもを育てる				
b 中期経営目標		c 短期経営目標	d 目標達成のための重点方策	e 評価指標	f目標値%	h 達成度	i 評価	i 結果と課題の説明	j 改善案	k2次評価	l 評価
自ら学ぶ	自ら学び深く考えたことを生かす子を育成する 研修を通して，専門職としての力量向上に努める	子どもたちが話し合い，学び合う授業を推進する	・ペアやグループでの話し合いを積極的に取り入れる。	・児童の評価 ・保護者の評価 ・教師の評価	70	児75．7 保76．6 教93．1	A	●ペアやグループでの話し合いにおいて教師は児童の成長を感じたが，児童や保護者が「すすんで」話したり聞いたりすることができたと実感するまでには至っていない。	・自信をもって話し合いに参加できるように，教科のみならず学活や道徳などの時間を使って，ペアやグループでの話し合いの機会を一層増やしていく。	A	・グローバル化する時代に対応できる力を伸ばしていくことが，これからを生き抜く子どもたちには大切なことである。
		学習規律を身につけさせる	・教室前面の掲示物を使って，よい話し方や聞き方を意識させる。	・児童の評価 ・保護者の評価 ・教師の評価	80	児75．9 保64．8 教86．2	B	●児童の達成度は目標値に達していない。自分がよい話し方や聞き方をしているかどうか十分に判断できていないのではないか。	・話し合いのときに，児童の発言や聞く態度を例にあげてどのような点がよいのかということをその場で評価し、指導をしていく。 ・めあてについて毎月振り返りを行い、一層の意識化を図る。	B	・話し方や聞き方がよいとされる基準を明確にして指導していくことはとてもよい方法である。
		子どもの学びを深めるためにICTの効果的な活用を研究する	・学校や学年でICTのよりよい活用方法について研修を行う。	・児童の評価 ・保護者の評価 ・教師の評価	75	児95．9 保91．9 教96．6	A	○児童・保護者・教師全て目標値を大きく上回っており、授業の中でICT機器を十分に活用することができた。授業研究で活用の仕方を検討し、機器の使い方の研修を行った。	・児童がICT機器を活用する場を増やしていく。 ・iPadなどの活用法を更に研究し、授業に積極的に取り入れる。	A	・先進的な取り組みで，とてもよい。 ・授業の中でもっと使うことで子どもたちのICT機器に触れる機会を増やし，活用力をつけることがこれからの時代には必要なことである。
		授業力向上を目ざす	・授業づくりについての校内研修を充実させる。	・児童の評価 ・保護者の評価 ・教師の評価	70	児82．1 保82．3 教96．5	A	○全教師が授業を公開し、授業についての検討会を行うことで、よりよい授業づくりを目ざしてきた。児童・保護者・教師全て目標値を上回っており、概ね達成できた。	・平成32年度新学習指導要領全面実施に向け、今求められている学力についての研修を行い、日々の授業に役立てていく。	A	H32年度の学習指導要領の改定に向け，子どもたちを育てていくために，変化を継続的に取ることはとてもよいことである。
豊かな心	思いやりを持ち，自らを律し，助け合う子を育成する	礼儀やルールを身につけさせる	・あいさつ運動の実施（あいさつ週間には，学年だよりや児童会だよりで保護者や地域の人に知らせ，あいさつ運動を展開する）。	・児童の評価 ・保護者の評価 ・教師の評価	80	児81．7 保74．1 教68．9	B	●あいさつ運動の実施に伴い，期間中はすすんで挨拶できている。しかし，その後はあいさつを継続できていない。また，地域の人へのあいさつができていない様子が見られる。	・意識が継続できるように，教師が粘り強く指導していく。（挨拶が返ってくるまで声をかけるなど） ・あいさつ運動では，取り組みのポイントを明確にして実施していく。	B	・地域の方が交通当番に出ていても，挨拶がないことを実感する。 ・時代として，知らない人から挨拶をされても返さないことがあるのは当然である。 ・まずは，親が挨拶をする習慣づくりから作っていかなければいけない。学校からのプリントにも，家庭で挨拶を頑張るように呼びかけるとよい。
			・学級活動や道徳の授業でルールやマナーを意識させて指導をする。	・児童の評価 ・保護者の評価 ・教師の評価	80	児84．8 保89．5 教86．2	A	○学級活動や道徳の授業でルールやマナーについた指導を行うことで，児童の意識が高まってきた。	・児童の現状の合わせ，学級活動や道徳の授業で指導を行っていく。 ・学年集会や学級指導で，月の生活目標を積極的に呼びかけ，意識を高める。	A	・ルールやマナーは，地域でもっと育てられるようにしていくべきことである。 ・親との連携が必要である。「育てたように子は育つ」というが，親の教育が大切である。
		本好きな子を育てる	・学年ごとに年間目標冊数を設定し，読書状況を把握し，指導に生かす。 ・ふりかえりカードを通し，学校での読書の状況を伝え，家庭への協力を呼びかける	・児童の評価 ・保護者の評価 ・教師の評価 ・図書館貸し出し冊数の達成率	80	児75．7 保61．8 教96．5 図書86．0	B	○読書週間や目標冊数の設定，貸出冊数の途中経過を意識させたことにより，達成することができた。 ●家庭での読書に対する意識がやや低い。	・ふりかえりカードに，読書についての自己評価を設けたり，懇談会で貸出冊数などの読書状況を伝え，家庭への協力を呼びかける。	B	・本好きな子を育てることは，生涯を通じて大切なことである。
		いろいろな人とかかわる力を育てる	・定期的なたてわり活動を実施し，異学年集団とのかかわりを深める。	・児童の評価 保護者の評価 ・教師の評価	80	児89．4 保80．0 教89．7	A	○たてわり活動を通して，異学年とのかかわる力を深めることができた。	・重点方策に，定期的にエンカウンター活動を学年で取り入れ，実施して，学級・学年集団のかかわりを深めることを加える。	A	・大人も含め，人とかかわることが苦手な子どもたちが多くなってきている。違う年の子と接する中で社会性が身につき，我慢することも覚えることができる。
		いじめに対する意識を高くもつ子を育てる	・学級の実態に応じた道徳指導や，情報モラル教育カリキュラムに沿った授業を実践し，道徳的心情を高めていく。	・児童の評価 ・保護者の評価 ・教師の評価	80	児86．7 保82．9 教79．3	B	○学級の実態に応じた道徳指導や，情報モラル教育カリキュラムに沿った授業を通して，人の思いを考えて行動できる児童が増えてきた。	・来年度からの道徳の教科化に向け，映像資料やロールプレイを取り入れた授業など道徳的心情を高める取り組みを検討し，実施していく。 ・いじめをしない意識を高めさせるために，いじめ・思いやりについての内容を取り扱った授業を実施していく。	B	・英語はグローバル化に対応する力，プログラミング学習はIT化，AIの時代に対応する力，道徳はダイバーシティ（多様性）を育てることが大切である。
じょうぶな身体	命を尊び，たくましい生活力のある子を育成する	基本的な生活習慣の定着を図る	・元気カード，学年だよりや保健だよりで家庭に働きかけ，早寝早起き朝ごはんの励行する。	・児童の評価 ・保護者の評価 ・教師の評価 ・元気カードの結果	80	児76．1 保70．5 教76．6 元気78．8	C	○元気カードや学校保健委員会での早寝早起き朝ごはんの呼びかけを行ったことで，子どもたちの意識も高まってきた。特に早起き早寝に関しては，目標時間を設定していることで達成意識がもてている。	・学校保健委員会や元気カードを定期的に実施する。 ・子どもの意識がさらに高まるように，より良いカードを工夫していく。 ・年間を通して子どもが意識をもてるように，学年通信や学級指導で呼びかける。	C	・早寝，早起きと合わせて，食育にも力を入れてほしい。 ・アレルギーの問題もあり難しいとは思うが，給食の残食をなくす働きかけはしているのか。
		粘り強く運動に取り組む子を育てる	・運動場にチャレンジコーナーをつくり，外遊びを奨励する。	・児童の評価 ・保護者の評価 ・教師の評価	80	児66．6 保80．8 教100．0	B	○新しくフラフープのチャレンジコーナーを設置したことで，運動する子が増えた。	・フラフープ以外にも道具を使ったチャレンジコーナー（ボール投げ等）を設置する。	B	・下校後の様子を見ても，地域で外遊びをするところも少なくなっている。 ・アスレチックのような遊具もないし，運動場が遠いので行くのがおっくうになるのではないか。
		安全な学校生活を送らせる	・子どもたちの安全意識を高めるため，校内・登下校における継続的かつ具体的な指導の徹底を目ざす。	・児童の評価 ・保護者の評価 ・教師の評価	80	児95．0 保87．3 教82．8	A	○学級や学年での登下校指導や地域の方の協力もあり，子どもたちの安全意識が高まりつつある。	・学校全体で継続的に登下校の指導を行い，その場面に応じて迅速に学級や学年で協力して登下校指導を行う。	A	・雨の日の下校時に，傘をさして広がって話しながら歩いている姿を見る。地域と協力していくことが大切である。
			・右側歩行ができる環境を考え，実行する（廊下に折り鶴を設置する）。	・児童の評価 ・保護者の評価 ・教師の評価	80	児64．2 保73．9 教41．4	C	●環境委員が行った廊下の真ん中にラインを引く取り組みから，右側通行を意識する児童が増えている。しかし，まだまだ走って移動してしまう子がみうけられる。	・右側通行の意識は続けつつ，歩いて移動することへの取り組みのポイントを明確にして実施していく。 ・右側通行を意識するために，ラインを引くだけでなく，壁に矢印をつける取り組みを行う。	C	・朝は通学団で班長が指導してくれているのでよいが，下校時は，歩道や道路に広がっている姿が見られるので，直していくとよい。
信頼される学校	自信と情熱をもった教師集団を目ざす 家庭や地域とともに子どもを育てる	子ども一人一人に合った対応に努める	・生活サポート全体会を月に1回実施する。 ・必要に応じて臨時の生活サポート委員会や情報交換会を開催する。 ・個人面接を伴う生活アンケートを年3回・いじめアンケートを月1回実施する。	・児童の評価 ・保護者の評価 ・教師の評価	80	児85．9 保83．3 教100．0	A	○児童・保護者・教師で達成度が目標値を超えていることは，評価できる。重点方策が十分に機能している証拠である。 児童・保護者で14～16%程度の不満がある。全ての件に対して満足できる対応をすることはできないが，教師は自分の指導や対応について今一度振り返る必要がある。	・重点方策を活用して，丁寧な指導・対応を日々心がけ・継続していくことが大切である。 ・教師は「早期対応」「情報の共有化」を常に心がけ，一人で問題を抱え込まないようにする。	A	・発達障害をもった子たちへの対応が喫緊の課題である。担任が授業に支障が出ないように，誰か対応できる人を付けることはできないのか。
		地域・保護者とともに教育活動を行う	・クラブ活動や活動型授業におけるゲストティーチャーやお手伝いボランティアなどとして，地域保護者へ幅広い招聘や参加の呼びかけをする。 ・お世話になった地域の方に，子どもたちが感謝の気持ちをもてるようなかかわり方を工夫する。	・児童の評価 ・保護者の評価 ・教師の評価	80	児72．5 保86．5 教75．9	B	○保護者の達成度が目標値を超えてることは評価できる。 児童・教師で3割弱そう思わないとあるが，学年によって偏りがあるだけで，学校全体として見た場合，十分に実施できていると考える。 ●現在実施してる重点方策の工夫が必要。	・各学年生活科や総合的な学習で実施していることが多いので，牛川小独自の教育課程作成や活用の情報を充実させたり，実践をデータとして残して引き継いだりしていくことが重要である。	A	・地域でいろいろとやってくれている方がいる。地域と協力してしっかりと取り組めていると思う。
		家庭や地域へ情報を積極的に発信する	・学校の様子を知らせるホームページやブログの更新をする。 ・学校学年だよりの定期的な刊行とメール配信による効果的な情報発信を行う。	・保護者の評価 ・教師の評価	80	児－－．－ 保84．0 教100．0	A	○保護者・教師共に達成度が目標値を超えており，十分に評価できる。紙媒体だけでなく，ホームページのブログやメールで情報発信していることが，効果的に働いている。今後も引き続き情報発信していくことが重要である。	・保護者が知りたい学校の様子を掴み，そのニーズに応える情報発信の努力をしていく。	A	・地域が足を引っ張らないようにしなければいけない。